

# 栄にぎざわい戻るか

2017名古屋市長選

現場から 甲

東海地方随一の繁華街・栄に立つ、高さ180mの名古屋テレビ塔（名古屋市中区）。運営会社の社長大沢和宏さん（77）は「名古屋のシンボルとして、にぎわいの拠点となる役割を担いたい」と意気込んだ。

「恋人の聖地」に認定された塔には、カップルら年間約30万人が訪れる。1954年開業の塔を2020年の東京五輪までに耐震補強し、あわせて集客施設を誘致する予定だ。先月30日、栄の再生に向けた基本合意書を市などと交わした。

栄には南北約2km、東西約1000mにわたって広がる久屋大通公園や老舗の百貨店、音楽ホールなどがある。天守閣の木造復元が動

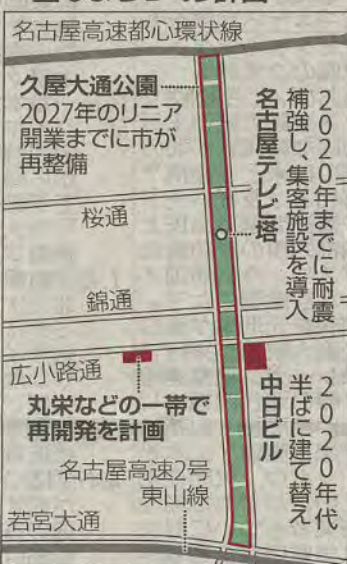
## 集客力 名駅「独り勝ち」



き出した名古屋城も近い、名古屋の魅力が詰まったエリアだ。

ただ、地盤沈下は進む。名古屋駅周辺の公示地価の最高価格が栄を上回っ

名古屋・栄の主なまちづくり計画



栄の再生を目指す大沢さん。「リニア開業にあわせて世界にアピールできるエリアにしたい」と話す（14日、名古屋市中区で）＝松田賢一撮影

名古屋市長選候補者

河村たかし 68 無現

岩城 正光 62 市長

太田 敏光 68 無新

（届け出順、元は前職を含む）  
元自動車会社社員  
元副市長

て、はや9年がたつ。名古屋の百貨店の年間売り上げナンバーワンも15年以降、駅前の高島屋に奪われている。同駅周辺ではリニア中央新幹線の27年開業を見込んだ超高層ビルが相次いで完成し、17日のJＲゲートタワー（地上46階）ですべて開業した。

鉄路で東海全域から集客できる立地を最大限活用した同駅周辺の独り勝ち状態に、大沢さんは「大都市として今後も発展するためには栄のような憩いやゆとり、文化が必要」と訴える。行政も同駅への一極集中を懸念し、「市全体で、にぎわいの底上げを図りたい」として栄の再生を支援する。

市が13年にまとめたまちづくり計画では、リニア開業までに久屋大通公園にカ

フェを導入し、芝生やイベント空間を整備する。同時に民間投資を呼び込む考えで、今年度から担当チームを2人増の11人とした。市都心まちづくり課主幹の井上智さん（46）は「リニアで名古屋に来た人が足を運びたいと思うまちに」と力を込める。

それでも、民間の動きは鈍い。名古屋を代表する老舗百貨店「丸栄」の再開発や、建て替えを決めた中日ビルの今後は具体化していない。周辺からは「『栄にビルを造っても人が来るのか』と事業者が慎重になっている」という声が上がっている。

栄の復活について、エコノミストの内田俊宏・中京大客員教授は、名古屋の観光都市としての魅力アップが欠かせないとし、強みである最先端のものづくりの活用を提言する。「例えば、観光客らが自動運転の車に乗り、様々な施設がある広いエリアを回遊できる仕掛けを作れば、より多くの人が集まってくる。そうすれば、民間の投資も活発になるのではないか」（小嶋伸幸）